

令和5年度(2023年度)水道事業会計予算について

令和5年度予算の概要

水道事業は、お客様からいただく水道料金を主な収入源とする独立採算制によって運営されています。事業の運営にあたっては、**公共の福祉を増進するとともに、常に企業の経済性を発揮することが求められています。**

越谷・松伏水道企業団では、令和2年度に策定した「水道事業マスタープラン（後期見直し）」に掲げる各施策を着実に実施するため、令和5年度(2023年度)における予算を編成しました。当企業団は、基本理念である“世代（とき）を越え 命の水を送り続ける こしまつ水道”を念頭に、『強靱』、『安全』、『持続』の三つの基本方針で掲げる施策の実現に向けて、事業の運営に取り組んでまいります。

令和5年度予算の主な内容（基本方針と主要施策）

「強靱で安定した水道事業の構築を目指して」

水道施設の規模の適正化

- ・水需要の減少及び老朽化等による南部浄水場の廃止を見据え、引き続き、他の浄・配水場で安定給水が図れるよう準備を進めます。昨年度からの継続事業として実施している西部配水場の設備整備工事については、今年度末の完成を目指します。また、築比地浄水場の浄水能力の向上を図るため、ろ過設備改修の実施設計に取り組みます。

水道施設の耐震化と更新

- ・老朽化した配水管の更新については、重要施設につながる管路や耐用年数を過ぎた管路を優先し、計画的に耐震化を進めます。
- ・築比地浄水場系の基幹管路は、昨年度からの継続事業である第6工区及び第8工区の完工を目指すとともに、第10工区1,392mについては3か年継続事業として着手します。
- ・基幹管路以外の配水管は経済的に優れた管材や工法を採用して耐震管への更新を進めます。
- ・令和5年度末の管路の耐震管率は50.9%になる見込みです。

危機管理対策の充実

- ・地震、風水害などあらゆる危機事象を想定し安定給水を図ります。
- ・日頃の点検は、浄・配水場の各種設備や主要な管路等の異常を察知し、事故を未然に防止することのみならず、職員の技術の継承にもつながるため、引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに、有事の際には応急給水が円滑に行えるよう、訓練等を通して危機対応力の向上を図ります。

「安全な水の給水を目指して」

水質検査の徹底

- ・水源から蛇口までのあらゆる過程におけるリスク要因を分析・管理する「水安全計画」に基づき、常に安全な水道水を供給します。
- ・国が定める水質基準項目のほかに、より厳しい水質管理目標値を設定し、高い安全性を確保します。
- ・試薬類の調整に不可欠な「分析用電子天秤」を更新し、検査精度の向上を図ります。また、近年、水質検査の分析に必要なヘリウムガスが世界的に不足しており、解消の見通しが立たないことから水素ガスへ変更することとし、水素ガス発生装置を購入して安定した水質検査体制の維持に努めます。

良質な水道水の維持

- ・経年化した配水管は、濁水の発生が懸念されることから、発生リスクの高い地域を中心に水の需要が増える夏を迎える前に計画的に洗浄し、良質な水の供給を図ります。
- ・貯水槽設置者には貯水槽の適正な管理を促すとともに、指定給水装置工事事業者には更新制度を活用して品質管理や施工指導を徹底し、いつでも安心してお使いいただけるよう努めます。

「持続可能な水道事業経営を目指して」

料金の確実な収納

- ・未収金を発生させないため、納付相談などお客様に対してきめ細かく対応するだけでなく、再三の催告にもお支払いやご相談もいただけない場合には、やむをえず給水停止や弁護士による回収も実施するなど、未収金の抑制に努めます。
- ・今年1月から導入した「水道マイページ」は、これまでに多くの方々にご登録いただいています。引き続き、登録者数の増加に努めるとともに、お客様の利便性の向上とペーパーレスによる業務の効率化に取り組みます。

水道利用者（お客様）とのコミュニケーション

- ・広報紙「水道だより」やホームページ、ツイッターやYouTubeに加え、「水道マイページ」を積極的に活用し、PRキャラクター「こしまつくん」とともに、多くの方々へ情報を一層わかりやすくお伝えします。

人材の育成

- ・健全な水道事業経営を持続するための担い手は職員です。一人ひとりが各種研修を通して知識や技能を習得することはもとより、風通しが良く働き甲斐のある職場環境をつくることで、持てる能力を発揮して経営に参画できる人材を育成します。

脱炭素への取り組み

- ・西部配水場の小水力発電と北部配水場の太陽光発電による再生可能エネルギーを引き続き活用してまいります。また、現在更新工事を行っている西部配水場においては、既に東部配水場で実績のある高効率の配水ポンプやインバーターなどの省エネルギー設備を導入し、温室効果ガスのさらなる排出抑制を図ります。

予算規模

業務の予定量

	令和5年度	令和4年度	増減
給水戸数	170,700戸	169,200戸	+1,500戸
1日平均配水量	101,913 m ³	103,836 m ³	▲1,923 m ³
年間総配水量	37,300,000 m ³	37,900,000 m ³	▲600,000 m ³

予算の状況

収益的収支：お客様に水道水をお届けするための財源と費用 (単位：千円、税込)

	令和5年度	令和4年度	増減
水道料金	6,716,100	6,740,100	▲24,000
長期前受金戻入	841,400	803,200	+38,200
その他	347,500	338,700	+8,800
収入合計 A	7,905,000	7,882,000	+23,000
埼玉県営水道から原水を 購入する費用	2,280,000	2,340,000	▲60,000
お客様に水をお届けする ための費用	2,345,600	2,032,400	+313,200
減価償却費	2,335,000	2,319,500	+15,500
支払利息	143,100	176,100	▲33,000
その他	224,300	225,000	▲700
支出合計 B	7,328,000	7,093,000	+235,000
収支差額 (A-B)	577,000	789,000	▲212,000

【収入】

給水人口や給水戸数の動向、ウィズコロナへの移行による影響等を勘案して、年間計画配水量は対前年度比60万m³減の3,730万m³を見込み、水道料金は対前年度比2,400万円減の67億1,610万円を計上しました。

「長期前受金戻入」は対前年度比3,820万円増の8億4,140万円となり、「その他」の収益を合わせた収入全体の合計金額は、対前年度比2,300万円増の79億500万円となっています。

【支出】

年間計画配水量の減少等を見込み「埼玉県営水道から原水を購入する費用」は対前年度比6,000万円減の22億8,000万円を計上しました。

「お客様に水をお届けするための費用」は、各施設の維持経費や水道料金の収納などにかかるもので、エネルギー価格高騰による浄・配水場の動力費等への影響を勘案し、対前年度比3億1,320万円増の23億4,560万円を計上しました。

「減価償却費」は配水管などの償却費用で、対前年度比1,550万円増の23億3,500万円を計上しました。

「支払利息」は国などからの借入金の利息で、前年度比3,300万円減の1億4,310万円を計上しました。

「その他」の支出を含む支出全体の合計金額は、前年度比2億3,500万円増の73億2,800万円となっています。

資本的収支：水道施設を整備するための財源と費用

(単位：千円、税込)

	令和5年度	令和4年度	増減
水道施設を更新・改良するための借入金	1,420,000	344,000	+1,076,000
加入者分担金	280,000	280,000	±0
水道施設の設備を整備するための補助金	10,000	143,000	▲133,000
工事負担金	166,000	183,900	▲17,900
有価証券満期償還金	100,000	100,100	▲100
収入合計 A	1,976,000	1,051,000	+925,000
水道施設を建設・改良するための費用	4,845,800	3,048,400	+1,797,400
借入金の返済等	1,187,200	1,424,600	▲237,400
投資有価証券の購入	309,000	309,000	±0
支出合計 B	6,342,000	4,782,000	+1,560,000
収支差額 (A-B)	▲4,366,000	▲3,731,000	▲635,000

※令和5年度の収支で不足する43億6,600万円は過年度損益勘定留保資金などで補てんします。「損益勘定留保資金」とは減価償却費などによって内部に留保されるもので、資本的支出の財源になります。

【収入】

「水道施設を更新・改良するための借入金」は、西部配水場設備整備工事等に伴う財源として企業債を借り入れるもので、対前年度比10億7,600万円増の14億2,000万円を計上しました。

「加入者分担金」は、前年と同額の2億8,000円を計上しました。

「水道施設の設備を整備するための補助金」は、西部配水場設備整備工事に伴う財源としての国庫補助金であり、対前年度比1億3,300万円減の1,000万円を計上しました。

「工事負担金」は配水管の布設等に係る構成市町等からの負担金であり、対前年度比1,790万円減の1億6,600万円を計上しました。

「有価証券満期償還金」は、満期を迎えた有価証券の償還金として1億円を計上しました。

収入の合計金額は、対前年度比9億2,500万円増の19億7,600万円となっています。

【支出】

「水道施設を建設・改良するための費用」は、西部配水場設備整備工事、築比地浄水場系基幹管路更新工事、配水管布設替工事、配水管切廻し工事などで、対前年度比17億9,740万円増の48億4,580万円を計上しました。

「借入金の返済等」は国などからの借入金に係る元金の償還などで、対前年度比2億3,740万円減の11億8,720万円を計上しました。

「投資有価証券の購入」は資金運用のために有価証券を購入する費用で、前年と同額の3億900万円を計上しました。

支出の合計金額は、対前年度比15億6,000万円増の63億4,200万円となっています。